

## 自撰年譜

一九四九年二月三〇日 新潟縣刈羽郡黒姫村（現・柏崎市）野田八四八番地に、父・一之と母・ハルイ（春枝）の次男として生まれる。

一九五六年四月 新潟縣刈羽郡黒姫村立野田小學校入學

一九六二年三月 新潟縣刈羽郡黒姫村立野田小學校卒業

一九六二年四月 新潟縣刈羽郡黒姫村立城北中學校入學

一九六五年三月 新潟縣刈羽郡黒姫村立城北中學校卒業

一九六五年四月 新潟縣立柏崎高等學校入學

一九六八年三月 新潟縣立柏崎高等學校卒業

一九六九年四月 早稲田大學第一文學部入學。これ以後、大学院修了まで、長姉・美智子の嫁ぎ先、東京都豊島區南大塚の横田文一郎家に下宿する。

一九七三年三月 早稲田大學第一文學部（中國文學專攻）卒業

一九七三年四月 早稲田大學大学院文學研究科修士課程（中國文學專攻）入學

四月 私立成城高校の非常勤講師（一九八三年三月まで）

本年前後、早稲田大學文學部・松浦友久助教授から論文指導を受ける。

一九七五年三月 早稲田大學大学院文學研究科修士課程（中國文學專攻）修了。

修士論文は「曹植の傳記とその文學―延康・黄初年間以後を中心として―」

## 中國詩文論叢 第三十三集

四月 早稲田大學大学院文學研究科博士課程（中國文學專攻）入學  
 一〇月 研究發表「曹植の評價をめぐって——南朝期を中心として——」（日本中國學會第二七回大會、秋田大學）  
 本年前後 早稲田大學文學部を定年退職された目加田誠先生の荻窪の假寓宅で開かれた、『世説新語』の輪讀會に参加する。

一九七六年七月 早稲田大學中國研究青年友好訪中團（柳瀬喜代志團長）の一員として中國に赴き、上海↓南京↓西安↓鄭州を訪れた。上海の空港に降り立ち、中國の風と光に初めて觸れた時の感動は忘れがたく、西安の東郊―華清池の名湯に入れたのも好き思い出である（七月三〇日～八月一三日）。

一九七八年三月 早稲田大學大学院文學研究科博士課程（中國文學專攻）單位取得滿期退學

一九七八年四月 早稲田大學第一文學部の非常勤講師（一九八三年三月まで）

一九八〇年四月 津田塾大學學藝學部の非常勤講師（一九八三年三月まで）

八月（第一次）早大中國古典詩歌研究訪中團（松浦友久團長）の一員として、上海↓西安↓成都↓重慶↓武漢などを訪問した（八月二四日～九月七日）。二度目の大雁塔・華清池、最初の杜甫草堂・望江樓公園（薛濤井）・青城山・都江堰などを參觀したほか、最も印象が深かったのは重慶から武漢に到る三日間の船下りであり（客船東方紅三六號）、三峡の雄麗な風景を満喫した。在船中、作詩にいそしむ松浦老師の姿が懐かしく思い起こされる。

一九八三年四月 弘前大學人文學部助教授に就任。人文學科東洋文化コースで、東洋文化論を擔當する。ほどなく專攻科目は中國文學に遷る。

六月 研究發表「二つの香爐峰―唐詩と廬山―」（弘前大學國語國文學會、弘前大學教育學部）

八月 第二次早大中國古典詩歌研究訪中團（松浦友久團長）の一員として、廣州↓衡陽（衡山）↓長沙↓汨羅↓岳陽（洞庭湖）↓武漢↓廬山↓貴池↓南京↓無錫（太湖）↓蘇州を訪れた。衡陽から洞庭湖のほとりの岳陽まで、

ミニバスに乗って湖南平野を北上して、衡山の南岳廟、長沙の岳麓山(愛晚亭・岳麓書院)、汨羅の屈子祠などを參觀した二日間は、身體(腰や尻)が痛くなるほどの強行軍であったが、このときに見た、屈原が入水したと傳える汨羅江の清冽な美しさは、今なお忘れがたい(八月二五日〜九月八日)。中國の古典詩歌で雁の越冬地とされる回雁峰(衡陽市内南部)の小ささに驚いた。また、李白「秋浦の歌」で知られる、貴池(池州)南郊の清溪河(白洋河)を竹の筏で遊覽したこともなつかしい。

一二月 山形大學名譽教授・星斌夫の三女、明美と結婚する。

一九八五年二月 長女・芳枝が誕生する。

一九八六年前期 北海道教育大學教育學部釧路分校で集中講義。

一九八七年五月 研究發表「唐都長安樂遊原詩考―樂遊原の位置とそのイメージ―」(東北中國學會第三六回大會、秋田大學、三〇日)

一九八八年三月 次女・清香が誕生する。

八月 弘前大學大學院人文科學研究科(修士課程)における授業擔當を開始する(東洋文化論Ⅲ・東洋文化特論Ⅲ)。

一九九〇年八月 弘前大學人文學部教授に昇任する。人文學科東洋文化コースで中國文學(專攻科目)を擔當。

一九九五年四月 弘前學院大學の非常勤講師(中國文學購讀・中國文學概論などを擔當。後、同學院の非常勤講師(前期)に遷り、漢文學特論を擔當して現在に到る)

八月 第四次早大中國古典詩歌研究訪中團(松浦友久團長)の一員として四川省に赴き、成都を據點に江油・眉山・樂山・峨眉山などを訪問した。成都の杜甫草堂・武侯祠・望江樓公園・前蜀の王建墓(永陵)、江油の李白紀念館・李白故宅址・太白祠、眉山の三蘇祠、樂山の樂山大佛、峨眉山の萬年寺などを參觀した。車とロープウエーを乗

## 中國詩文論叢 第三十三集

り繼いで向かった、峨眉山の金頂（第二の高峰）は深い雲霧に包まれていた（八月二四日～三一日）。特に江油市青蓮鎮では、李白の故宅址（とされる隴西院）、彼の妹と傳える李月圓の墓と舊居（とされる粉竹樓）・洗墨池・太白祠などを見て感動した。

一九九六年前期 徳島大學総合科學部（人間社會學科）で集中講義。

一九九七年前期 東北大學大学院文學研究科で集中講義。

一月 青森縣立弘前實業高等學校で「唐詩研究の成果をめぐって―傳記・訓詁・風土・解釋―」を講演（青森縣高等學校教育研究會西地區研究大會、二二日）

一九九八年前期 秋田大學教育文化學部で集中講義。

二〇〇二年三月 岐阜大學・松尾幸忠助教教授の率いる「紹興・剡溪詩跡の旅」に、高校生の娘・芳枝を伴って参加し、上海↓杭州↓紹興↓上虞↓新昌↓寧波↓上海を訪れた（三月一五日～二二日）。杭州では西湖・孤山（放鶴亭・林逋の墓）・蘇小小墓・岳飛廟・六和塔・靈隱寺（冷泉亭）、紹興付近では魯迅紀念館・沈園・蘭亭・鑑湖・陸游故居址（陸游像）・平水江（若耶溪）・大禹陵などを參觀したが、舟で春の平水江を廻った遊覽と紹興酒工場での酒の試飲は楽しい思い出である。上虞の曹娥廟と墓、謝安の隱棲地とされる東山と謝安墓、新昌の天姥山・剡溪（長詔ダム）、天臺山の石梁瀑布、嵯州の王羲之墓、寧波の天童寺・天一閣などを參觀し、かつて道元が歩いたという天童寺へ向かう古道も残っていて興味深かった。

五月 青森學習センター（弘前大學附設）で「唐詩の四季」を講義（一八日、一九日）

八月 青森縣鯉ヶ澤高等學校で「花は舞う大唐の春―唐都長安の四季―」を講演（青森縣高等學校教育研究會・地理歴史科公民科部會總合研究大會、二二日）

二〇〇四年一月 秋田大學で「中國唐代の詩仙李白と詩聖杜甫の世界」を講演（秋田大學公開講座「中國の文化と思想、

中日秋田漢詩文、二六日)

二〇〇五年九月 中國の江蘇省鎮江市(潤州) ↓揚州市 ↓安徽省滁州市 ↓和縣 ↓馬鞍山市 ↓當塗縣 ↓宣城市 ↓南陵縣 ↓涇縣 ↓九華山 ↓池州市に赴いて、詩跡の實地調査を行った(科學研究費補助金、九月三日～二三日)。鎮江市では唐の王昌齡詩にちなむ芙蓉樓が本来の場所と異なる金山公園内に造られ、揚州市では大明寺の境内に九層の棲靈塔が再建されて、觀光産業に役立っていた。滁州の醉翁亭、宣城の謝朓樓、涇縣の桃花潭は、いずれも深い感銘を覺えた詩跡である。

二〇〇六年九月 中國の山東省兗州市 ↓濟寧市 ↓鄒城市 ↓曲阜市 ↓泰安市 ↓濟南市 ↓陝西省西安市に赴いて、詩跡の實地調査を行った(科學研究費補助金、九月四日～一四日)。山東省での調査は、李白と杜甫が永別した場所とされる兗州市の「金口壩」に始まり、濟寧市(任城)の太白樓、鄒城市の孟廟、曲阜市の孔廟・孔林、五岳筆頭の險しい岩山・泰山、濟南市の大明湖・歷下亭・千佛山(歷山)などを參觀した後、十王朝の古都・西安市に赴いた。西安市付近での六日間にわたる調査では、杜牧の樊川別墅の地(長安區朱坡村)、杜甫が岑參兄弟に誘われて舟遊びをした漢陂(湖、戶縣)、山を陵墓とした唐太宗の巨大な昭陵が、特に深い感銘を與えた。

二〇〇七年一月 研究發表「中國歴代の地理總志に見る詩跡の著録とその展開―南(安徽省池州市)と北(山東省濟南市區)の實例を通して―」(早稲田大學中國文學會第三二回秋季大會、早稲田大學文學部、八日)

二〇〇八年五月 「詩の時代―唐詩とその風景―」を講演(二〇〇八年度前期「明治大學リバティアカデミー」講座名「唐詩とその時代背景―『唐詩選』を讀む(一)」の第二回、明治大學駿河臺校舎にて、二二日)

二〇〇九年一月 秋田大學で「李白と杜甫―二人の交流をめぐる詩―」を講演(秋田大學公開講座「東アジアの文化と社會Ⅱ」、一三日)

二〇一〇年八月 秋田大學教育文化學部で集中講義(八月二日～六日、「中國文化論Ⅱ」)。

## 中國詩文論叢 第三十三集

九月 中國の浙江省杭州市↓紹興市↓諸暨市↓金華市↓衢州市↓福建省武夷山市↓福州市↓泉州市に赴いて、詩跡の實地調査を行った（科學研究費補助金、九月六日〜一三日）。南宋・陸游故居址の荒廢、諸暨市苧羅山の西施殿の整備、金華市の八詠樓の存續など、詩跡のさまざまな現狀に觸れることができた。

二〇一一年九月 中國の江蘇省蘇州市↓無錫市↓南京市↓江西省九江市↓廬山↓南昌市に赴いて、詩跡の實地調査を行った（科學研究費補助金、九月一〇日〜一八日）。蘇州郊外の靈巖寺（館娃宮の跡）、南京の瓦官寺、桃葉渡遺址の荒廢と閉鎖、復元された烏衣巷、開發のために撤去された九江の琵琶亭、陶淵明ゆかりの栗里の醉石と「清風橋」（柴桑橋）、南昌の滕王閣の隆盛など、さまざまな詩跡の現狀に對する知見を多く得た。

二〇一四年 弘前大學人文學部における最終年度の授業科目は、中國文藝（A・B・C・D）、ゼミナール、二一世紀教育科目では古典語實習（漢文）、大学院（人文社會科學研究科）では中國言語文化論、中國文化論などである。

一月 弘前大學五〇周年記念會館岩木ホールで、「中國の詩跡巡禮―名詩誕生の聖地、寒山寺（楓橋）・華清宮・桃花潭など―」を講演（弘前大學人文學部 國際公開講座二〇一四、「アジアの文化・歴史《再發見》―津輕・日本そして中國―」、三日）

二〇一五年三月 弘前大學人文學部教授を定年により退職する。